

「アテキュラ®の吸入方法」の
動画をWebサイトでご覧いただけます。

https://secure.novartis.co.jp/enerzair_atectura_movie/

こちらのQRコードからアクセスしてください。



かかりつけ医院・病院の連絡先

アテキュラ®を服薬の方へ

はじめてのアテキュラ®

— 気管支喘息 —

監修

藤田医科大学医学部
呼吸器内科学II講座 教授

堀口 高彦 先生

ぜんそく治療の目標

(日本アレルギー学会 喘息予防・管理ガイドライン2018による)

健康な人と変わらない日常生活を送ることができる

ぜんそくの影響を気にせず仕事ができる



発作で夜中や早朝に目が覚めることがない



諦めていたことができる思いっきり余暇を楽しめる



【参考】一般社団法人日本アレルギー学会 喘息ガイドライン専門部会(編).
喘息予防・管理ガイドライン2018. 協和企画; 2018, p.3.

息苦しさやせき込み、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」といった喘鳴(ぜんめい)などが現れます。

- 息苦しい
- せき込む



- 呼吸時にゼーゼー、ヒューヒューという音が出る



- 夜間や早朝に、せきや息苦しさなどのぜんそく症状が出やすい
- ぜんそく症状で夜間、目が覚める



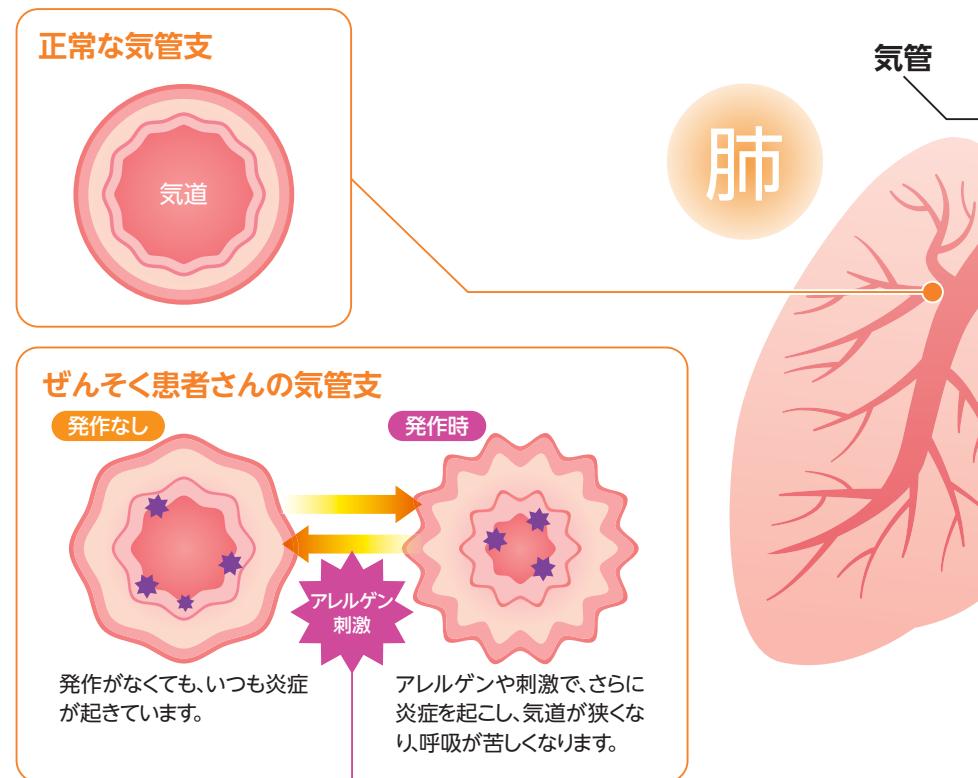
- 走ったり運動した後、息苦しい



ぜんそくの発作はこれらに限らず、胸の痛みやのどに感じる違和感だけといった場合もあります。

ぜんそく発作が起こるしくみ

ぜんそくは、呼吸する時の空気の通り道(気道)が炎症によって狭くなることで起こります。

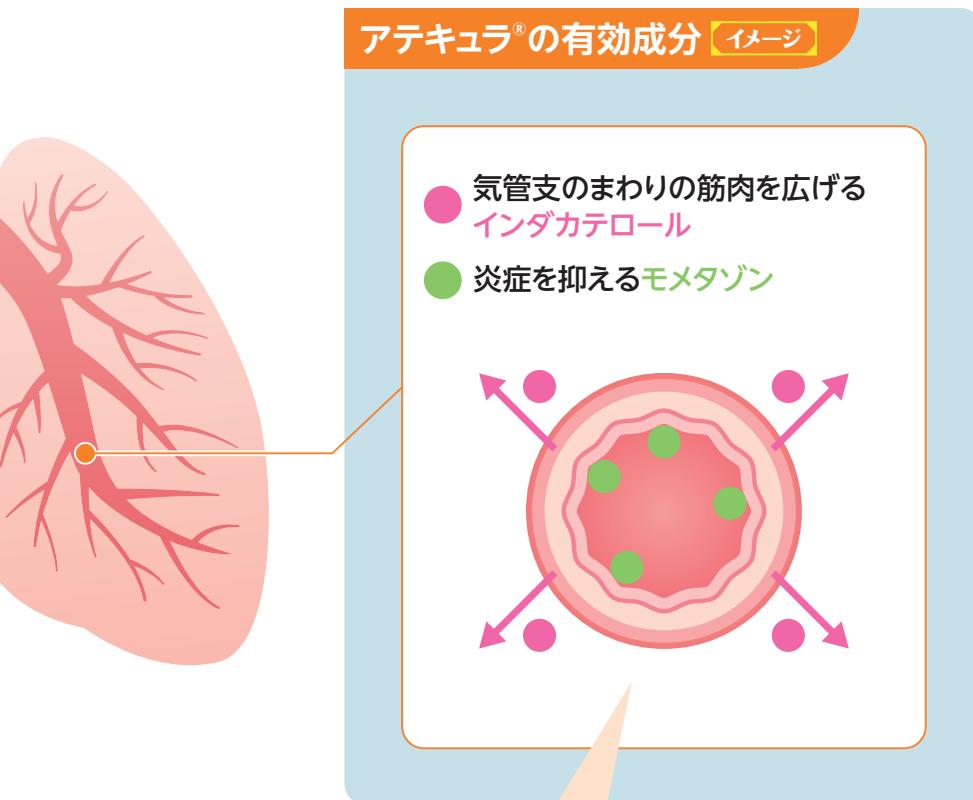


ぜんそく発作を起こす例



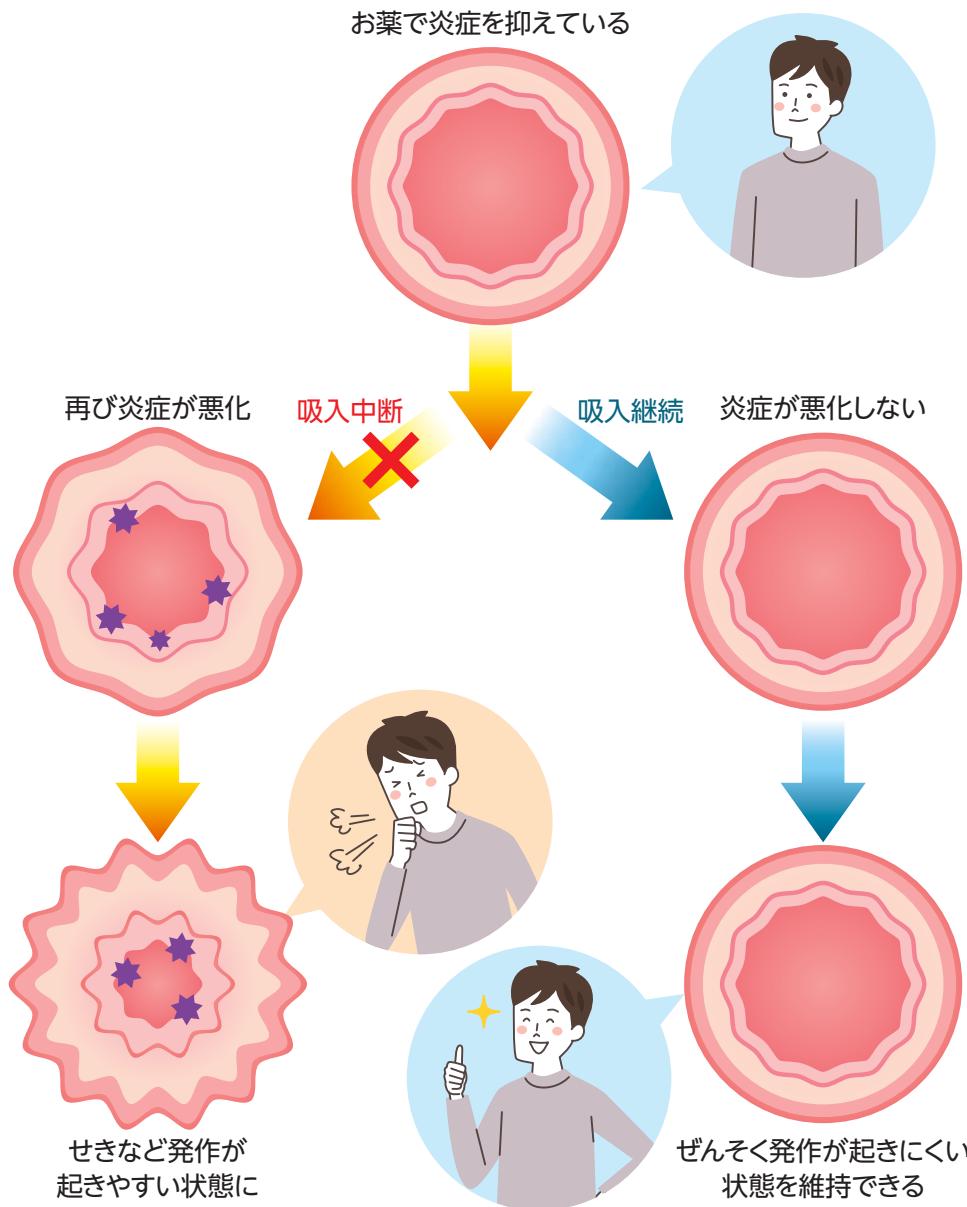
ぜんそく発作をコントロールするために

アテキュラ®には「気管支を広げるお薬」と「気管支の炎症を抑えるお薬」が含まれています。



アテキュラ[®]を継続して吸入していただく重要性

アテキュラ[®]は継続して吸入することが非常に重要です。



アテキュラ[®]はぜんそく発作が起きてしまった時に吸入する薬剤ではありません。

ぜんそくの発作が治まっていても気道の炎症は続いています。アテキュラ[®]は、継続的に吸入することでその炎症を抑え、ぜんそく発作を起きにくくするためのお薬です。発作がない時も主治医の指示に従って吸入を続ければ、次第に気道の炎症がしずまり、次の発作を起きにくくすることにつながります。

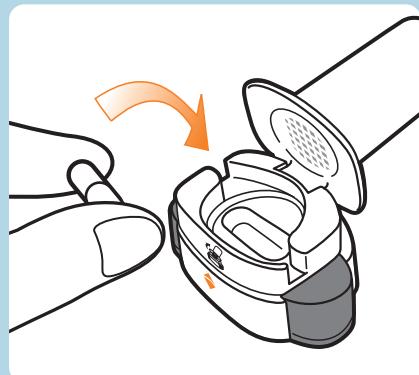
毎日、主治医に指示された使用量と回数を守り、正しく吸入し続けることが大切です。ぜんそくの症状が抑えられない場合は、できるだけ早く医療機関を受診してください。



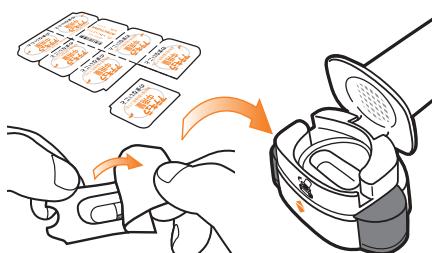
アテキュラ®の吸入方法

1

吸入器(ブリーズヘラー®)にカプセルを1つだけ充填します。



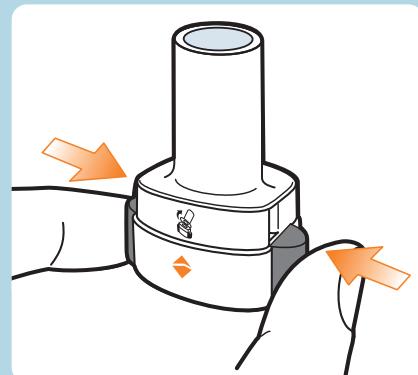
マウスピース(吸入口)を開け、アルミシートから取り出したカプセル1つをカプセル充填部(穴)に入れます。



充填した後、マウスピース(吸入口)を、「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じます。

2

黒色のボタンをしっかり押し、離します。



両側のボタンを1度だけ、しっかり最後まで押します。



最後まで押したらボタンを離します。

(ボタンを押したままでは吸入できません)

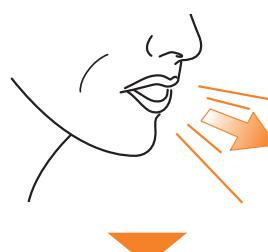


3

息をはき出してから正面を向いたまま速く、できるだけ深く吸入します。



吸入する前に、必ず息をはき出します。

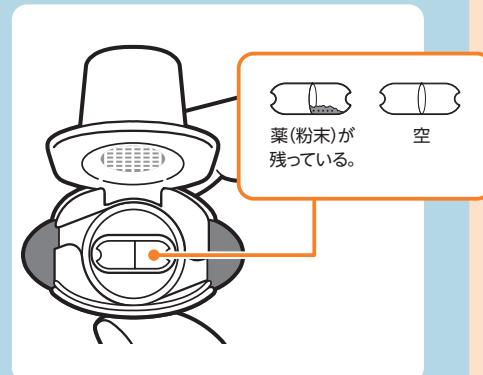


吸入し終わったら、苦しくならない程度に息を止め、マウスピース(吸入口)を口から離し、息をはき出します。

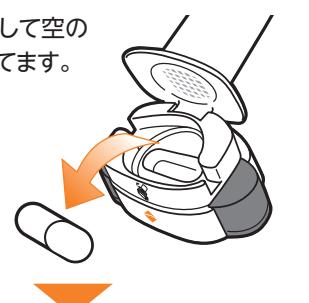


吸入が終わったら…

空になっていることを確認し、カプセルを捨てます。



本体を横に倒して空のカプセルを捨てます。



吸入後は
うがいをするか、
口をすすぎます。
口に含んだ水は、
飲み込みます、はき
出してください。



吸入前にご注意・ご確認いただきたいこと



アテキュラ®は吸入するお薬です。
飲み薬ではありませんので
決して内服しないでください。



アルミシートから
カプセルを押し出さないで
ください。



マウスピース(吸入口)に
カプセルを直接
入れないでください。

アテキュラ®を吸入した後に注意すべき症状

■ 声がかかれる、とぎれる



声のかすれ・とぎれは、吸入の後にうがいをして、
口の中のお薬を洗い流すことで、防ぐことができます。ですので、**お薬を吸入した後は必ずうがいを行いましょう。**
(ガラガラ・ブクブクをそれぞれ2回以上行うと、より効果的です。)



■ 皮ふが赤くなったり、舌や口の中がひりひりする

■ 動悸やめまいがする

■ 手足の力が抜けたり弱くなったりする



このような症状が現れた場合は、
すぐに主治医にご相談ください。